

「黄色い署名」目標達成し、中央提起の会員拡大運動を成功させよう

4月こそ署名推進を！ 特別期間で仲間を増やそう

桜花咲き乱れる春爛漫・暖かくなってきました。

会員のみなさんには、つながら日暮らしをされ、諸活動に取り組まれておられることと存じます。

治安維持法改定案本部も、3月22日に幹事会を開催し、5月15日の国会請願に向けたとりくみ、総会に向けた仲間を増やす活動について協議しました。その中で、署名活動は4月に力を注ぎ、5月15日の国会請願に向けたとりくみで目標の5,000筆を達成すること（3月22日現在1635筆）。そして会員は全国大会（6月19日～20日）までに400人に達する「挑戦目標」を決めました。

各支部では、それぞれの活動態勢や事情もあるうと思いますが、"署名と会員拡大"に集中して活動を強化することをお願いします。

同盟本部も、支部建設などに力を入れて、目標達成に尽力する決意です。会員みなさんのご協力をお願いいたします。

2024年4月 県本部副会長 橋本 健

ピールをする参加者
「老朽原発動かすな」のア



能登半島地震で震源地付近が
かつて「珠洲原発」建設予定地
だったことが報道されました。
そこは揺れただけでなく、地
盤が大きく隆起しました。もし
原発が建設されていたら、原発
が崩壊し、日本全土に壊滅的な
被害をもたらしたかもしれません。
「珠洲原発」計画中止に追
い込んだ地元住民の反対運動が
あつたからこそです。地震大国
の日本に原発は要りません。
能登半島地震を教訓に、日本の原発政策を見直すことが必要
です。

原発ゼロの社会 実現へ

3月9日 「2024 びわこ集会」に500人参加



滋賀県版No.363

2024・4・15

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
〒113-0034
東京都文京区湯島2-4-4
平和と労働センター・
全労連会館

発行

滋賀県本部

大津市竜が丘11-22-316
☎077-521-0884
袖口 延

4月1日現在

会員 336人
(目標400人)
個人署名
1635筆
(目標5,000筆)
団体署名
22筆
(目標150筆)

第32回全国女性交流集会報告集
が出来ました。記念講演「敵基地
攻撃と日米一本化」半田滋
県本部にて発売中。600円

支部だより

大津支部

入場無料
(京阪錦駅徒歩一分)

大津支部は、3月29日の幹事会で4月末で支部目標の署名1800筆を達成することを確認しました。3月29日現在で1525筆の到達で、あと275筆です。幹事一人30筆を集めることにしました。会員拡大については、名前を挙げて誰が声を掛けるか確認。目標を140人と決めました(現在121人)。会議終了後、早速同盟へのお誘い行動に踏み出し、2人の会員を増やしました。月半ばに署名推進ニュースの発行を予定しています。

DVD上映会のお知らせ
映画「きけわだつみの声」
(ー1950年公開)

4月20日(土) 14時~
かざぐるま会館 2階

この映画上映について、二年ぐらいい前から東近江でできないかと相談を受けていて、やっと上映できてよかったです。全国はもちろん県下各地で上映運動が行われているのは承知をしていて、省内では市レベルでは東近江だけができるといふことがあります。何とかできないかと自分でも考えていきました。ちょうど、2023年に今まで活動が止まっていた地区労を再結成したこともあり、地区労を母体にできないか模索する中で、民衆団体にも声をかけ、何とか無事55名の参加で成功を収めることができました。正直言つて30名集まれば御名の字だと考えていました。私自身

「わが青春つきるとも
藤千代子の生涯」の上映を
終えて

竹腰宏覧

この映画上映について、二年ぐらいい前から東近江でできないかと相談

だけ、50名を超える参加者で成功しがあつてのものだと思います。

映画上映後の参加者の声は、「もつと大きなスクリーンで観たかった」

「二回目だが最初の時より感動が大き

い」「もっと若い人にも観てほしい」などの声が寄せられました。確かに場

所の問題は、会場を十分吟味せずに決めたのは反省材料、ただ、音響などは

プロの技師(藤本隆草)さんにお願い

したのでバツチリでした。観る回数が増えるほど、この映画の奥深さが理解

できる、もつと若い世代にこの生き方について考えてほしいと思ったのは、私だけではなかつたと思います。

今、労働組合に参加する若い人が少ない、政治に関心をもつ若い人たちが

3月に県内3カ所で上映会が行われました。東近江市と大津市での取組みを紹介します。

伊藤千代子の生涯

は、教職員組運動の母体が彦犬愛だったこともあり、東近江地区的労働運動の状況を知りえてない状況の中での取り組みで、日程・場所などを提供した

だけ、50名を超える参加者で成功したのは、今までの諸先輩方々のご努力があつてのものだと思います。

映画上映後の参加者の声は、「もつと大きなスクリーンで観たかった」

「二回目だが最初の時より感動が大き

い」「もっと若い人にも観てほしい」などの声が寄せられました。確かに場

所の問題は、会場を十分吟味せずに決

めたのは反省材料、ただ、音響などは

プロの技師(藤本隆草)さんにお願い

したのでバツチリでした。観る回数が

増えるほど、この映画の奥深さが理解

できる、もつと若い世代にこの生き方について考えてほしいと思つたのは、私だけではなかつたと思います。

今、労働組合に参加する若い人が少

少ない現状の大きな原因是、学校教育で使用する教科書の記述

が歪曲されるなど、憲法を改悪し、安保条約のもと米国に追随し、戦争する国作りにまい進す

る自民政権の悪行があると思

います。

来たる総選挙では、野党共闘での勝利で自民政権からの交代が必然になってきます。この

映画を通して、権力に抗して声をあげた伊藤千代子の生き方をたくさんの人たちに見つめてほしいと思いました。

(東近江地区労 代表)

門東美知子

(大津支部)



大津市木戸で

ファイナル上映会

黒崎夏彦

3月24日に、映画「わが青春つ」を、旧志賀町の木戸交流センターで午後2時から行ないました。主催は「私たちの地域で文化を育み楽しむ会」でした。が、この会には島田耕さん、尾隆司さんと私が所属し、実働は国賠同盟大津支部の面々が頑張りました。同映画は、2022年4月に同じく旧志賀町の2会場で上映を行ない、併せて200人近くの方がたが鑑賞されておられ、今回の上映会は「ファイナル上映会」と銘打ちまして、まだ観られていない方にはじめ観ていただこうと取り組んだのです。

今では当たり前の民主主義や基本的人権ですが、戦前の天皇制のもとで治安維持法が制定され、これらを求める人たちが少しでも行動すると、ことごとく弾圧され拘禁され拷問を受け、

転向を強要される時代だったことが、伊藤千代子（主人公）の生き様を中心に分かりやすく描かれています。

私は今回で2度目の鑑賞でした。が、観るたびに心が揺さぶられる思が数多く起っていますが、巧妙さや基本的人権が踏みにじられる事象が数多く起っていますが、巧妙さゆえに自公政権を中心とする国家権力（司法もしかり）に打ち負かされることもしばしばあります。

国賠同盟の本旨にそつて、日本を再び戦前の暗黒の社会に後戻りさせないよう、そして社会の発展に寄与するよう取り組んでいこうと、観た人たちに勇気を与えてくれた映画会となりました。

（大津支部 幹事）

女性部だより

4月3日、山梶麻喜子さん（近江八幡支部）宅で、秋野久子さん（湖北支部）、滝すみ江さん（彦根愛犬支部）、古谷道代（大津支部）4人が集まりました。

今年久しぶりに実現できたワンデイツアや、戦前の「伊藤千代子」から学び戦後のたたかいに繋いでいくうと「近江網糸人権争議に学ぶ」集いが大津と彦根で開催できて本当に良かったです。「活動はやっぱり楽しく元気にならないといけないなあ」ということを確認し合えた一日でした。6月19日～20日は第41回中央本

まず、昨年10月に開かれた全国女性交流集会報告集の大石喜美恵女性部長と吉田万三中央本部会長のあいさつを読んでミニ学習。岸田悪政への怒りは尽きず熱が入るなかで、これまでの活動のまとめや今年度の取組について話し合いました。

今年は県女性部結成から15年です。今年度の取組みを次のように考えました。●印は案ですので、みなさん、ぜひご意見およせください。●結成から今日まで、15年の活動をまとめる

●ワンディツア・・「天保義民の碑」を訪ねるツアー（9月～10月） ●県女性のつどい・大石喜美恵・中央本部女性部長のお話と交流 2025年1月～2月

昨年久しぶりに実現できたワンデ

イツアや、戦前の「伊藤千代子」から学び戦後のたたかいに繋いでいくうと「近江網糸人権争議に学ぶ」集いが大津と彦根で開催できて本当に良かったです。「活動はやっぱり楽しく元気にならないといけないなあ」ということを確認し合えた一日でした。6月19日～20日は第41回中央本

第14回治安維持法犠牲者調査検討会

◆4月16日（火）14時～16時 ◆大津市民活動センター中会議室
◆太平洋戦争下で検挙された人々（検討会は今回を最終回とする予定）

治安維持法体制下での抵抗の群像・滋賀⑬

東洋レーヨンで起きた二つの弾圧事件

高田 直樹

東洋レーヨン滋賀工場について

東洋レーヨンは1926年に三

井物産の出資で創業し、27年4月に東レ滋賀第1工場が完成しました。33年9月に第2工場が完成し、36年6月には第3工場が完成しました。38年の最盛期には日産73.9tと当時世界屈指のレ

ヨン工場に発展しました。従業員数は27年8月の初紡糸時に職員120人、工員599人（男452人、女147人）でスタートし、36年末には7862人（県内出身者2544人）を数えました。

日中戦争から太平洋戦争へ戦火が拡大する中で、東レ滋賀工場も設備をスクランブルとして供出し、生産は急減します。43年には第1

工場を特殊軍事部に転換し、魚雷の部品を製造しました。終戦直前の45年7月に空襲を受け、死者14名、重傷250人余りの被害を

受けました。（『東レ90年史』）

第一の弾圧（1930年）労農党員の職工解雇事件

東洋レーヨンで起きた最初の弾

圧事件については、この連載の第八回「1930年・労働運動の高揚と弾圧（続）」（『不屈滋賀版』2024年11月号）に詳しく載せました。新労農党滋賀県準備会の発足にあわせ結成された新労農党系滋賀織維化学労組の東洋

レーヨン支部を作ろうとした際に、重岡勇ら新労農党員の東レ職工5名が解雇された事件です。解雇撤回闘争の中で、高野茂樹、澤勘四郎、高野與三郎など新労農党役員が治安維持法違反等で検挙されました。

第二の弾圧（1933年）工場建設現場の朝鮮人土工弾圧事件

第二の弾圧事件は、33年6月に東洋レーヨン第二工場建設現場で

木建築労働者生活擁護闘争委員会を結成、バラック住宅立ち退き反対と賃金値上げを訴え闘争を展開したことです。これに対し大津警察署は警察官百名以上を投入し、澤勘四郎ほか20名が検挙されました。全

て協京都の役員でオルグとして闘争指導にあたっていた張載達（チャン・チエダル）が後日、治安維持法違反で検挙、起訴され34年7月に懲役二年判決が言い渡されました。この闘争を指導したのは全協（日本労働組合全国協議会）ですが、特高はこの年の2月の全協中央への弾圧をはじめ地方にも集中的な攻撃をかけ、多くの全協弾圧事件が全國で起きていました。なお、この事件について河かおるさんが連載「滋賀と朝鮮」の第5回（『不屈滋賀版』2016年8月号）で詳しく取り上げられています。

第三の弾圧（1938～39年）「非法グループ」事件

第二の弾圧事件は38年12月から翌年2月にかけて起きた「東レ非法グループ事件」です。本事件は当時の官憲資料（『特高月報』『社会

運動の状況』）が数ページを割いて大きく取り上げています。しかし『滋賀県労働運動史年表』では一行の記載もありません。官憲資料によって事件の概要を要約すると次のような内容です。

38年10月頃東洋レーヨン滋賀工場において、職工の中に「不敬反

抗言辞を弄するものあり」との聞

込みにより、同年12月24日に関係年2月にかけて順次職工を検挙し取り調べたところ、工場内に「正統派」「労農派」の両派が共産主義に立脚したグルー

プを形成しつつあることが明らかとなり、39年2月にかけて順次「正統派」12名、「労農派」7名の計19名を検挙した。

このうち「正統派」の中心人物桑雄は共産主義の宣伝、共産主義

グループの結成準備をしたとして唯一起訴された。中安利蔵、松井廣、増田誠吉、浦四郎の四名はそれぞれ起訴猶予となつた。一方、職工の中の「労農派」の中

心人物下田守一と「労農派」理論を指導した姉の下田安代、さらに下田守一と共に職工の中のグループ形成の中心となった高田留藏と勢村勘二の四名は起訴猶予となつた。

この「東レ非合法グループ事件」は、彼らのどういう行為が治安維持法違反にあたるのかはつきりしません。「不敬反戦言辞を弄した」「共産主義グループの結成準備」とありますが、その具体的な内容が定かではありません。検挙者が19名にのぼり、獄死者まで出た「大事件」となったのはなぜなのか。それを解明するには当時の全国的な運動との関連をみなければなりません。

日本における人民戦線運動

日本共産党中央委員会が35年3月弾圧により壊滅したあと、同年7月のコミニンテルン第7回大会で反ファシズム人民戦線の方針が打ち出されます。翌36年2月、モスクワにいた山本懸蔵と野坂参三は、反ファシズム統一戦線の方針を日本で具体化するように求めた。

「日本の共産主義者への手紙」を発表し、「国際通信」などで日本に伝えました。県内でも、この『国際通信』がアメリカから大津や八日市に送られていたことが『特高月報』などで確認できます。

共産党再建運動Ⅱ「正統派」

コミニンテルン第7回大会に出席して帰国した小林陽之助を中心となつて東京、大阪、京都に組織が作られ、共産党的再建と人民戦線運動の推進が図られます。和田三四ら関西の党員は36年3月に人民戦線をすすめる各種のパンフレットを発行し、組織（日本共産党再建準備会）の発展拡大に努めます。36年12月に関係組織1300余名が検挙され、37年12月には小林陽之助が逮捕され、獄死しました。さらに関西では「軍部独裁政治反対」をスローガンに掲げる「日本共産主義者団」が春日庄次郎、竹中恒三郎などによって37年12月に結成されますが、翌年9月に158名が検挙され、壊滅しました。これら共産党再建運動を

官憲資料では「正統派」と呼んでいます。

「労農派」の人民戦線運動

この人民戦線運動は社会民主主義者にも影響を与え、加藤勘十や鈴木茂三郎などが結成した「労農無産協議会」は「反ファシズム人民戦線」を提唱して、社会大衆党に共同闘争を申し入れます。しかし社会大衆党はこれに反対し、人民戦線排撃を大會で決定します。その後「労農無産協議会」は「日本無産党」と改称し、「反ファシズム統一戦線を目指しますが、37年12月に446名が検挙され、さらに日本無産党と全譯は治安警察法によって結社禁止とされました。翌38年2月には「労農派」教授グループの38名が検挙されました。これら左派社会民主主義者を官憲資料で「労農派」と呼んでいました。

一方、東レ「労農派」の中心人物・下田守一を指導していたのは姉の下田安代で、彼女は鈴木茂三郎が所長を務める「日本経済研究所」（東京）に勤務しており、後に夫となる伊藤実（38年2月「労農派グループ地方同人」として検挙）と大津に来たりして、下田守一を指導していました。

「東レ」の「正統派」と「労農派」は全国的な人民戦線運動の流れの中で捉えることによってはじめて、「大事件」とされた理由を理解することができます。東洋レーヨンという大工場を舞台にして人民戦線運動が展開され、この人民戦線運動に危機感をもつた特高が徹底した弾圧を行つたのでした。

（県本部 副会長）

滋賀と朝鮮
97

帰國運動と帰国事業①

河かる

2016年4月に開始したこの連載も、いつのまにかついに9年目に突入しました。寄り道や行きつ戻りつをしつつも、一応は時代順に書き進めてきたこの連載で、まだ書いていないと私が思っている大きな固まりとしては、1959年からの帰国運動／帰国事業があります。以前に書いた彦根の城東小学校の「平和の誓像」や米原小学校の「平和の光像」はいずれも、帰国記念に残されたもので、その時に「後日、詳しく書きます」といってそのままになっていました（他にもそういうのがあります……）。もともと勉強不足なテーマの上に、近年、新しい研究も複数刊行されたので、頑張って勉強しながら、今後数回に分けて書いていこうと思います。

いて頭を整理しつゝ、出来事の概要を説明したいと思います。研究書などでは「帰国事業」という用語が一般的で、「」付きで用いられる人とそうでない人がいます。在日本朝鮮人側の運動に焦点をあてる場合は「帰国運動」が使われ、これは「」無しで使われることが多いです。新聞のデータベースを調べると、朝日新聞は特に明確な区別なく「帰国事業」、「帰還事業」が混用されているようです。一方、読売新聞は「帰還事業」でほぼ統一しているようです。

『在日コリアン辞典』(明石書店、2010年)では、「帰国事業」や「帰還事業」の項目は無く、「帰国運動」の項目だけがあります(朴正鎮執筆)。ひとまずこの辞典の記述に基づいて出来事の経緯だけを説明すると、次のとおりです。1958年8月11日、

神奈川県川崎市に居住する在日朝鮮人が、日本での生活を清算して集団帰国することを決議し、金日成首相に送つたところ、同年9月8日に金日成首相は「在日朝鮮人の帰國願望を熱烈に歓迎する」と公言し、16日には南日外相が、帰国後の生活や子どもの教育を全面的に保障すると公式声明します。以後、在日朝鮮人総聯合会（総聯）を中心に帰国運動が展開され、いつたのを受けて、1959年2月13日、岸内閣は「在日朝鮮人中北鮮帰還希望者の取扱いに関する閣議了解」を確認します（「北鮮」は不適切ですがそのまま引用）。1959年8月13日、カルカッタで日本赤十字社と朝鮮民主主義人民共和国赤十字会との間で「在日朝鮮人の帰還に関する協定」が締結され、同年12月14日に第一次船が新潟港を出港します。以後、一時中断もありましたが、1984年まで187回、約9340人（日本人の配偶者や子ども含む）が新潟から船に乗つて朝鮮民主主義人民共和国に渡りまし

他の複数の辞書・辞典を検索でき
るデータベースで検索してみると
「帰国運動」「帰国事業」という項
目を設けている辞書・辞典は無く、
「帰還事業」という項目が小学館
『デジタル大辞泉』にありました
が、「ナチスドイツが、ソ連やリト
アニア・ボーランド東部などに定住
していたドイツ系住民をボーランド
西部に移住させた事業」も挙げてお
り、一般的な歴史事象を指す用語の
扱いでした。平凡社と小学館の百科
事典は1959年8月のカルカツタ
協定を指す「(在日)朝鮮人帰還協
定」を項目にしていました。

葉の実感とはかけ離れているよう感じてしまい、「」無しで使つて良いのか迷います。しかし「帰国（運動）」は、在日朝鮮人が自らの要望を表現するために、当時、自ら用いていた用語です。帰るべき国だと思っているところへ移動する当事者が、「帰国」という表現を選択する以上は、それを尊重するべきとも考えます。

日本政府や新聞や辞書・辞典などが「帰還事業」とするのは、カルカッタ協定で使われている用語が「帰還」であり、それに基づいた事業だから「帰還事業」という以上の意味はないかもしません。一方、在日朝鮮人や朝鮮民主主義人民共和国側は、「帰国（事業）」を主に使っているようです（ただし「帰還」を全く使わないわけではない）。この使い分けの実態や意味がずっと気になつてきますが不勉強のためか、まだよくわかつていません。別に使い分けに大した意味はないかもしれません。しかし、当時、日本は大韓民国とも朝鮮民主主義人民共和

国とも国交が無く、両国が朝鮮半島での国家の正統性を主張している中の八重洲で行われたのですが、その前に時間があつたので、山本宣（1889～1929年）の最後の地となつた神田近辺を歩いてみました。

そななことで、あまり「頭の整理」になつていらない気もしますが、この原稿ではさしあたり「」無しで帰国運動、帰国事業という用語を使つていいこうと思います。おそらく読者の皆様の中には、当時、クラスメートが帰国したという記憶をお持ちの方が多数おられることが多いまです。あるいは吉永小百合主演の映画「キュー・ボラのある街」（1962年）に描かれた、帰国する在日朝鮮人の家族を思い出す方もいるかもしれません。これから数回、そんな記憶を呼び起こしながらおつきあいいただけたらと思います。

（滋賀県立大学准教授）



写真①

千代田区が建立。

東京バークタワーという高層マンションの前の道路に顕彰プレートがあります。隣の建物の学士会館には、「日本野球発祥の地」、「東京大学発祥の地」、「新島襄生誕の地」などの碑がありまし

た。次に訪れたのが1906年に17歳で上京し、大隈重信邸に寄宿しながら通つた正則英語学校（現正則学園高校）②。

その後は、1908年の社会主義者弾圧事件である「赤旗事件」（錦輝館事件）が起つた錦輝館跡（現在は神田税務署）を訪ねました。2時間あまりのフィールドワークでした。

昨年は、女性部のワンデーツアで宇治の山宣の生家・花やしきを訪ね、今年3月には、山宣の墓前祭に参加、そして今回は、念願の山宣の終焉の地を訪ねることができました。

（県本部 柚口 延）



写真② 正則英語学校

自由と人権・平和をわが人生に重ねて⑯

白石 道夫

共産党员人生

近江綱糸時代②

前回の締めくくりで、「のんびりしていられない、安保闘争が迫っていた」と述べたが、もう少し労働運動について述べておきたいことがある。

労組が分裂状態を克服した

あって職場での労働者の間がぎくしゃくしていた。私が分裂時に属していた「再建派」ということもあって“職場八分”的状態から抜け出す状況について連載⑫（不届12月号）で「しかし、『同じ働く仲間』であり、『同じ釜の飯を食う』間柄である。年と共に少しずつわだかまりも消えていった」と述べたことがある。そのとおりだが、具体的には、労働者の間に競争原理を持ち込み、賃金に差

をつけ、一方で反共意識を植え付ける

一 会社側の労務管理によつて労働者

間に疑問や矛盾が生まれる。「なんで？」という気分と「トイレぐらい機嫌よく行かせてよ」など作業をするうえでの要求が出てくる。こうした労働者の変化を注意深く見ていくことが大事だ。要求で団結し、実現のために力を合わせる。

共産党的会議で職場の状況を出し合はれ、前向きの変化をとらえて活動を組み立てる。集団の知恵と力の發揮である。その保障が週単位での会議と討議である。この経験は、後の県・地区役員として活動する私にとって大きな財産となつた。

さて60年安保闘争である。

日本は、1951年9月8日、講和

条約を結ぶとともに日米安保条約に調印した。日本は形の上では独立国となつたが、その実態は全国に米軍基地をつかえ、国土や軍事など重要な部分をアメリカに握られた事実上の従属國

となつた。さらに1960年1月、改定された新安保条約が結ばれた。新たに軍事力の増強と共同作戦の義務、経済面での対米協力などが盛り込まれた。

安保改定に反対する民主勢力と国民は、安保共闘を組織し、改定阻止のために全力を挙げた。労働組合も商工団体もストライキを構えてたたかつた。

私たち近江綱糸彦根工場の党支部も、県・地区的指導を受けながら全員で取り組むことになつた。活動内容は、何よりも改定されようとしている新安保条約はどういつたものかについての学習、それを力にしての行動—地域に出かけての署名活動だった。C番勤務（昼間勤務）を終えた支部員たちは、たまり場にしている党員宅に集合、炊き出しの食事をとつて、一人一組で数組をつくり、彦根市の農村部・高宮や鳥居本などに出かけた。

連日の取組だった。訪問先で安保条約そのものについてのやり取りは当然だったが、ときには「共産党に

行動は署名の取組にとどまらないことを覚えている。

かつた。全国レベルで取り組まれた国会請願行動に呼応して、私も何度も請願参加者を派遣した。私も何度か参加した。深夜、米原駅でかけそばを食べ、夜行列車に乗った。座席はすべて埋まっており、私たちは列車内の通路に新聞紙を敷いて座り込んで東京へ向かった。近江綱糸の党支部から延べ10人を超えて請願団を送つた気がする。

当時、私たちは党勢拡大でも努力し、困難ななかでも30人を超える党支部をつくつた。いま、安保法制＝戦争法が施行されて8年になり、大軍拡・暮らし破壊が進行しつつあるが、60年安保闘争の経験を活かして、大軍拡・暮らし破壊の暴走を食い止めたいと思う。

（大津支部）